



福祉の空間化

— 命をまもり、はぐくみ、
つなぐ「まちづくり」

オンライン
開催

2020.10.29 Thu.

17:00-19:30

●参加費:無料
●定員:先着20名

都市形成の原理について俯瞰すると、近代以前の時代には、気候、地形、資源、移動コストなどの様々な条件が制約として働き、人々がこれら諸条件を知恵により生かしながら空間と社会を最適化することで都市が形成されてきたのだと考えられます。しかし、日本では、戦後の高度経済成長の時代に、都市をつくるための知恵や道徳の大切さを見失い、経済合理性の原理に身を委ねたまま、社会を分断するような都市空間が生まれてしまいました。科学技術の急激な進歩により、多くの制約条件が無くなった今、私たちは道徳的な都市の社会空間の形成原理を再構築するべき岐路に立っています。今回のサロンでは、社会と空間の分断を克服する方策の一つとして、「福祉の空間化」という概念を取り上げ、様々なアプローチから展開や拡張の可能性について議論したいと思います。

■ プログラム

- 17:00 開会挨拶 堂目卓生 SSI長/経済学研究科教授
- 17:10 話題提供
- 広井良典 京都大学こころの未来研究センター教授
「福祉の哲学とその空間化について」
 - 三崎信顕 大阪府 住宅まちづくり部 副理事
「大阪府の福祉の視点からの住まい・まちづくりとその展望」
 - 遠藤剛生 遠藤剛生建築設計事務所代表取締役
「集合住宅計画における個と全体の関係について」
 - 木多道宏 工学研究科教授/SSI副長
「地域レベルからみた都市空間の形成原理の系譜と展望」
- 18:10 ディスカッション
- 19:30 終了